

5.16

- 司会 福島 三徳<熊本県> 熊本県教育庁社会教育課社会教育主事  
西森 昭彦<高知県> 高知県教育委員会生涯学習課社会教育主事

## 1. 出会いと学びの空間づくり - 「森山町文化の村」の歩み- 14:15~14:40

廣瀬 成秀<長崎県> 森山町教育委員会派遣社会教育主事

文化の村は森山町の生涯学習の中核地区として位置づけられ、図書館、武道館、スポーツ交流館の3つの社会教育施設から構成されており、小学校・中学校が隣接している。図書館では「知育」、武道館では「徳育」、スポーツ交流館では「体育」を意識し、人と人の出会いの場として、様々な事業を展開している。文化の村のあゆみ、事業内容とその成果について発表を行う。

## 2. 志布志町生涯学習の取り組み - その成果と課題- 14:40~15:05

渡辺 純幸<鹿児島県> 志布志町教育委員会社会教育課長

志布志町では民間の活力を生かすことを目指して、民間の人々の協力を得て「まちづくり委員会」を設立し、提言をするなど、様々な事業を行ってきた。生涯学習センターでは、76講座を開設し、成果の評価システムや単位制度の開発に力を入れている。また、さわやか大学ではボランティアによる運営を行い、年に4回の講演を行っている。これらの取り組みとその成果、課題について発表を行う。

~ ティータイム ~

15:05~15:40

## 3. 「ながさき県民大学」開講の経緯と事業展開 15:40~16:05

野中 慈生<長崎県> 長崎県教育庁生涯学習課係長

県及び市町村、大学・短期大学で実施している生涯学習に関する事業・講座を体系化し、県民に学習機会を効果的に提供するため、また、学習成果を適正に評価することで県民の学習意欲を高めて生涯学習の一層の振興を図るために、平成9年9月に「ながさき県民大学」が開講された。開講までの経緯、これまでの成果、今後の事業展開について発表する。

## 4. 人材育成事業の連携・統合をめざす「中城とよむ塾」の活動 16:05~16:30

山田 薫<沖縄県> 中城村教育委員会生涯学習課人材育成係長

「すべての人材育成事業をまちづくりにつなげる」という発想から、有益かつ多彩な人材、リーダーの養成を目指して、これまで一般行政、教育行政、民間で行われてきた人材育成に関わる事業を連携・統合する中城村人材育成基本計画「とよむ中城人プラン」が作成された。その実践中核機関として「中城とよむ塾」も開設された。開設の経緯、運営状況と今後の活動の展望について発表する。

## 5. 総括討論 16:30~17:00

■司会 浜田 満明<島根県> 島根県教育庁生涯学習課課長補佐  
佐藤かがり<福岡県> 福岡県教育委員会社会教育課社会教育係

## 1. 全日本きんま選手権大会 ー木馬レースの成果と課題ー 14:15~14:40

久木原 章次<福岡県> 上陽町教育委員会社会教育係長

「出会い、ふれあい、めぐり逢い、愛しようわが町〜じょうよう祭り」のメインイベントとして「木馬(きんま)レース」が行われる。昔から木材を運搬するために使用していた木製のそり「木馬」に400kgの俵を積み、42.195kmのタイムを競うレースである。参加チーム、観客ともに増え続け、町を挙げて実施している本大会の成果と課題、今後の展望について発表する。

## 2. 生涯スポーツ推進によるまちづくり 14:40~15:05

ーグラウンドゴルフ発祥地の取り組みー

山田 学<鳥取県> 泊村教育委員会事務局主事

昭和57年に生涯スポーツ活動推進事業の一環として研究開発が行われ、15年の間にグラウンドゴルフは全国に広がり、日本協会会員数約8万人、愛好者の数は100万人を超えるまでになった。また、全国からの選手を村民をあげて歓迎する発祥地大会も今年で10回目を迎える。誰でも気軽に楽しめるグラウンドゴルフが誕生するまでの経過と魅力、グラウンドゴルフが村へ与えた影響、これからの展望について発表する。

ー ティータイム ー

15:05~15:40

## 3. 「かるた」を契機とした地域交流の現状と展望 15:40~16:05

田中 裕行<大分県> 中津市教育委員会社会教育課社会教育主事

伝統的に「かるた」が盛んな土地柄である。地区公民館を中心に「かるた」に励んできた子どもたちの中の一人が、全国少年少女かるた選手権大会で見事に日本一の栄冠を獲得した。以後4連覇を果たし、現在も楽しみながら地域の人たちと練習に励んでいる。彼女を目標として生き生きと活動している友だちの姿、「かるた」を契機に活性化した公民館、地域の人々の現状と今後の展望について発表する。

## 4. 手作りの郷土芸能発表会「ザ・ふれあい芸能 in さいはく」のめざすもの 16:05~16:30

仲田 司朗<鳥取県> 西伯町教育委員会主幹兼社会教育係長

廃れつつある郷土伝統芸能と町内で新しく作った芝オケの文化芸能5団体(法勝寺歌舞伎保存会・金山芝居保存会・天津芝オケ研究会・東西町芝オケ研究会・宗家藤間流理萌会)が中心となって、実行委員会を結成。地域伝統芸能を伝承していきこうと毎年11月に、全てボランティアで「ザ・ふれあい芸能 in さいはく」を開催している。これまでの経緯と活動内容、今後の課題・展望について発表を行う。

## 5. 総括討論 16:30~17:00

5.16

■司会 井関 嘉昭<長崎県> 琴海町教育委員会派遣社会教育主事  
中島 慶子<佐賀県> 佐賀県立生涯学習センター

## 1. 生活体験学校と家庭教育との連携の一方策

14:15~14:40

—生活労働調査を中心に—

永見かおり<福岡県> 福岡県立大学大学院人間社会学研究科生涯発達専攻

嘉穂郡庄内町で行われている通学合宿の参加者小学校3年~5年とその保護者に対して、家庭における土・日の生活労働についての調査を行った。その結果、平常よりも、参加する直前、直後の方が生活労働に取り組む傾向がみられた。また、調査を行うこと自体が生活労働の動機付けとなっていることがわかった。

## 2. 学校現場における「学社融合」への段階的取り組み

14:40~15:05

桑原 広治<熊本県> 人吉市立大畑小学校教頭

大畑小学校では現代的課題の分析、学社融合論の検討を行い、昨年1年間、全ての教育活動に生涯学習の視点を取り入れると同時に、PTAを巻き込んだ様々な活動を展開してきた。何から手をつけたのか、誰がリーダーとなって進めてきたのか等、具体的な実践活動の内容や考え方、今後の課題・展望について発表を行う。

~ ティータイム ~

15:05~15:40

## 3. 子どもたちのまちづくり体験 —東多久駅の美化活動を中心に—

15:40~16:05

牛丸 和人<佐賀県> 多久市立東部中学校教諭

「まちづくり」は地域住民全員の課題であり、当然、そこには子どもたちの参画の場がなければならない。今回は無人駅となり荒れ果てた駅を見て「自分たちの住んでいる町の駅が汚いのは恥ずかしい。」という子どもたちの意見から駅のリニューアルを行った一連の活動を中心に、まちづくりと子どもたちの関わり方、活動の成果、今後の課題について考察を行う。

## 4. 国立青年の家における学社連携の実践と考察 —主催事業を通して—

16:05~16:30

門司 幸男<熊本県> 国立阿蘇青年の家主任専門職員

国立阿蘇青年の家では、学社連携を意識した様々な事業を展開してきた。今回は、小学生や中学生が施設から学校へ通学する「生き生き自立友愛寮」事業や大学と連携して講座を提供する「ジョイント・カレッジ in 阿蘇」事業等の紹介を中心として、学社連携の成果と課題、今後社会教育施設が担うべき役割について考察を行う。

## 5. 総括討論

16:30~17:00

■司会 新田 憲章<広島県> 広島県教育委員生涯学習課主査兼社会教育係長  
姫野 敦子<山口県> 岩国教育事務所生涯学習ボランティア活動コーディネーター

## 1. ウイグル民族と日本の子どもの生活環境の比較研究 14:15~14:40

井上 豊久<福岡県> 福岡教育大学助教授

ウイグル民族の子どもの生活環境、遊びの実態、そして、子どもの心身の豊かさについて質問紙調査、インタビュー調査、観察を通して分析を行った。子どもたちは、学校や家庭、地域において、異年齢の集団の中で活発に遊ぶと同時に年齢に応じた社会的役割を担いながら、共同で喜びを見いだし、生き生きと自然や社会環境に立ち向かっている。調査の結果、子どもを取り囲む仲間、家族、地域等とのつながりが子どもの発達を多面的に支えていることが明らかとなった。

## 2. 使用済み切手で作る貼り絵サークルの社会貢献と発表の場づくり 14:40~15:05

大竹 富美代<佐賀県> 貼り絵指導者

高齢者大学のⅢ期生を中心として、使用済み切手貼り絵の自主学習グループが結成された。メンバーは10ヶ町村から集まっており、2カ年で技法の基礎を修得。技法修得後は学習を続けながら各地域で活動を行なっている。イベントの体験コーナーで指導を行ったり、貼り絵教室を開催する等、積極的に社会に貢献すると同時に、銀行や郵便局、新聞等において発表の場を持つ等、社会とのつながりを模索しながら学習を続けている。自主学習グループの成果と課題・問題点、今後の展望について発表を行う。

～ ティータイム ～

15:05~15:40

## 3. 街を変える —小規模劇団の挑戦— 15:40~16:05

桧垣 友孝<島根県> 浜田地区広域行政組合視聴覚ライブラリー・劇団「酔族漢」座付作家

平成5年、小劇場の舞台づくりを目指し、劇団「酔族漢」を発足。現在、団員7名。行政や他の団体からの助成は全く受けず、年1回の定期自主公演、他の劇団での客演、劇団の相互交流、舞台企画などの活動を行っている。このような小規模の劇団の活動が近隣市町村における既存の劇団への刺激剤となって、自主公演活動を活発にさせている他、劇団のない市町村においても劇団発足への気運を高めている。

## 4. 幼稚園における「世間づくり」の実践 —母親の趣味の会を通じて— 16:05~16:30

松本 秀藏<熊本県> 学校法人松本学園中央幼稚園園長

中央幼稚園では、育児ノイローゼ等の子育ての危機は、母親の周囲に相談相手がいないことが大きな原因ではないかと考え、未然に防ぐための工夫を重ねてきた。現在は、「趣味の会」を通して、母親同士が気軽に語り合い、相談し合う場を作り出している。母親同士が友だちを作ったり、井戸端会議感覚で情報交換できる母親の趣味の会の作られるまでの経緯や現在の活動内容、成果、課題について発表を行う。

## 5. 総括討論 16:30~17:00

5.17

- 司会 日高 正信〈鹿児島県〉鹿児島県教育庁社会教育課学習情報係長  
三村ハルヨ〈福岡県〉福岡県立社会教育総合センター学習ボランティア「若杉の会」

## 1. 奈半利町生涯学習推進大会をめざして

9:00～9:25

ー基本構想とまちづくりを中心にー

門田 透〈高知県〉 奈半利町教育委員会社会教育主事

平成6年度から取り組んでいる「生涯学習のまちづくり推進事業」の集大成として、平成8年度に「奈半利町生涯学習基本構想」の策定を行った。この基本構想をもとに、「いきいき輝く奈半利町」をめざして生涯学習によるまちづくりを進めているところである。生涯学習推進協議会委員の研修や協議、生涯学習推進大会実行委員会の大会成功に向けた取り組みの内容や経緯等について発表する。

## 2. 地域で支える「国府町万葉ウォークラリー大会」の意義と成果

9:25～9:50

澤田 義人〈鳥取県〉 国府町教育委員会社会教育係主任

大伴家持が万葉集を編纂した地、国府町。町内に多く点在する史跡、古墳を巡りながらグループの絆を深めるウォークラリー大会は、今年で8回目を迎える。町内はもとより県内外からの参加者も増え、500人規模の大会に育ってきた。婦人会や体育指導委員、高校生グループ、青年団等のボランティア協力で成り立っているこの大会の意義と成果を発表する。

～ ティータイム ～

9:50～10:25

## 3. 天然記念物大樟に学ぶまちおこし

10:25～10:50

ー青壮年グループ「大楠会」の取り組みー

白川 義雄〈福岡県〉 築城町教育委員会教育課長

地域のシンボル「本庄の大樟」はいつの時代もふるさとを見守ってくれている。大楠会は「緑と自然を愛し、郷土を愛す」を合言葉に、地域文化発信の源として手作りのまちおこし活動を進めてきた。メンバーは19名。平成4年の15周年記念を契機に毎年8月15日に「夏まつり大楠」を開催、大樟のライトアップや花火大会を実施している。また、年間を通して、樟の苗木配布、小中学生を対象とした絵画コンクール等を行っている。

## 4. わがまちを知るふるさと体験学習の現状と課題

10:50～11:15

原田 和則〈山口県〉 岩国市企画部企画課生涯学習推進室長

「自分の住んでいるまちを知ろう！」をモットーに岩国市のいろいろな側面を市民に実際に見てもらう「生涯学習施設巡りツアー」や、生涯学習ボランティアを必要とする施設と活動をしてみたい市民とをつなぐ「一日体験」、市職員・市民を講師として派遣する出前講座等を実施している。それぞれの事業の現状と成果、課題について報告する。

## 5. 総括討論

11:15～11:40

■司会 宮崎 克巳〈大分県〉 大分県教育庁中津教育事務所生涯学習振興課長  
大脇のり枝〈福岡県〉 福岡県立社会教育総合センター事業課社会教育主事

## 1. 青少年問題と家庭教育の模索 —取り組みと問題提起— 9:00～9:25

徳永 貴〈鳥取県〉 中山町教育委員会社会教育主事

数年前までは「いじめ」、最近は「ナイフ事件」など様々な青少年問題が社会全体の問題となっている。もはや学校だけで対応できる範囲をはるかに越えている。また、家庭や地域の教育力が低下していることは誰もが認めるところである。発表では、中山町の青少年の行動や活動の中から見えてくる家庭教育の重要性を再認識し、中山町の取り組みを紹介しながら問題を提起する。

## 2. 地域と学校の「わくわく塾」—地域教育活性化の道— 9:25～9:50

小濱 義智〈鹿児島県〉 加世田市教育委員会生涯学習課長

毎月第2と第4の土曜日は、地域の子どもたちを集めて「わくわく塾」が開催される。学校の先生や地域の人材が指導者になって子どもたちと交流しながら、パソコン、魚釣り、料理、昔の遊びなどを教えている。地域や家庭の教育力の低下が言われる中、学校と地域が一体となって進めている「わくわく塾」に地域教育活性化の道を探る。

～ ティータイム ～

9:50～10:25

## 3. ふるさとを見直す「わんぱくキッズ団」 10:25～10:50

—ふれあい体験活動を通して—

長野 欣也〈大分県〉 山国町教育委員会派遣社会教育主事

小学4年～6年生を団員とし、ふれあい体験活動を通してふるさと山国町を見直そうと始めた「わんぱくキッズ団」は、今年で3年目を迎える。緑の山々、源流の里、ホテルの舞うふるさとに建設された複合施設「コアやまくに」を文化の拠点にしながら、様々な活動を行ってきた。地域住民、高齢者の協力を得て、学ぶことの楽しさを知り、豊かな感性を磨き合う場となった活動の経緯や成果について発表する。

## 4. 夢を実現する「子どもの夢かなえ隊」の取り組み 10:50～11:15

古賀 英敏〈佐賀県〉 佐賀県児童青少年課主査

「子どもの夢かなえ隊」事業とは、子どもたちが思い描いた夢を、青年たちの協力を得て子どもたち自身の手で実現してもらおうというもの。計画から準備、夢をかなえるまでの諸活動を通じて、子どもに喜びと感動を覚える機会を与えるとともに、青年には社会参加活動の機会を提供しようという目的を持って、平成9年度から始まった。平成9年度の取り組みを中心に、事業の意義や成果を発表する。

## 5. 総括討論 11:15～11:40

5.17

- 司会 樋田 京子〈福岡県〉 福岡県教育庁教育企画部生涯学習課主任社会教育主事  
後藤美智江〈福岡県〉 福岡県立社会教育総合センター学習ボランティア「若杉の会」

## 1. 青少年教育施設における学社融合授業の実践的研究 9:00～9:25

岡崎 尚之〈福岡県〉 福岡県立社会教育総合センター指導主事

子どもたちに「生きる力」を育むためには、家庭・学校・地域社会が十分に連携・融合し、バランスのよい学習の機会を提供することが大切である。特に生活体験や自然体験等の活動が望まれている。福岡県立社会教育総合センターでは、「これからは地域も教室」をテーマに、地域の多様な人材や社会教育の事業・施設等を活用する各種体験学習プログラムを開発し、それを活用して学校の授業を行うなど学社融合の推進に取り組んでいる。

## 2. 小学生のサークル活動「わくわくウォッチング」の取り組みと課題 9:25～9:50

村川 直樹〈山口県〉 由宇町教育委員会生涯学習課派遣社会教育主事

学校週五日制の完全実施を間近に控え、地域において子どもたちが個性を發揮できるような活動の場をつくる必要性が高まっている。「わくわくウォッチング」は、そのようなモデルケースの一つとして、県の助成を受けて結成したサークルである。平成8年度より2年間、小学生十数名とスタッフが、自然体験や遊びを中心に取り組んできたサークル活動の内容・成果および今後の課題について発表する。

～ ティータイム ～

9:50～10:25

## 3. お話ボランティア講座 10:25～10:50

—心を育てる「本も友だち20分間運動」事業の取り組み—

古木 照代〈鹿児島県〉 市来町中央公民館係長

鹿児島県では、平成8年度から4年間にわたって心を育てる「本も友だち20分間運動」という事業が導入され、県下一斉にこの事業に取り組むことになった。この運動の主旨は、幼児からおとなまで本に親しみ、心の豊かさをとり戻そうというもの。子どもやおとなと本との橋渡しになろう、読書のきっかけづくりをしようと開設したお話ボランティア講座の取り組みを報告する。

## 4. 国境の町の「セゲ・ヌウン・ハナ」講座 10:50～11:15

—青少年の日韓交流で育つまち—

松村 義弥〈長崎県〉 上対馬町教育委員会派遣社会教育主事

上対馬町は日本と韓国の間位置し、国境の町として重要な役割を果たしてきた。その地理的・歴史的条件から一昨年より小・中学生・高校生・青年を対象に「セゲ・ヌウン・ハナ」講座を開いている。韓国の言葉や文化、ふるさとの文化・歴史等の学習、ホームステイによる体験学習を通して、21世紀の世界平和の一翼を担う人材が育つことを夢見ながら町全体で取り組んでいる活動について発表する。

## 5. 総括討論 11:15～11:40

■司会 森田 孟則〈沖縄県〉 沖縄県教育庁生涯学習振興課指導主事  
白川 康子〈福岡県〉 迅務株式会社総務人事課主任

## 1. 地域づくりを目指す生涯学習ボランティアの養成

9:00～9:25

— その経緯と課題 —

赤田 博夫〈山口県〉 下関市立吉田小学校教頭

われわれの生活基盤である地域には、青少年健全育成、環境美化、福祉や高齢者問題、生活向上などいろいろな問題が山積している。これらの課題にボランティアとして関わり、よりよい地域づくりを進めるためには、共に学び共に行動することが大切である。そこで、平成8年度から「生涯学習ボランティア養成講座」を取り入れ、地域に根差した草の根運動を展開することを試みた。2年間の取り組みの経緯、成果、課題について発表する。

## 2. 高齢者を主体とする野外教育の将来性 —全国シニアキャンプ大会を通して—

9:25～9:50

谷 正之〈福岡県〉 IEC国際理解教育情報センター福岡 代表

人と自然とプログラムとの出会いを数多く設け、いかに楽しさを見出して共有できるか、そこから生まれる明るさと活力を人生に反映していくためにはどう支援すべきかにポイントを置いて活動している。シニア（高齢者・熟達者）を主体として自由選択制を基本とし、地域の特性を活用するように努めている。地域住民・組織等との共働体制づくり、意識の変革などを含めて、多角的視点からとらえた成果と今後の取り組みについて報告する。

～ ティータイム ～

9:50～10:25

## 3. 地域のウォーク&ウォッチ —ある博物館とその周辺—

10:25～10:50

飯田 吉郎〈千葉県〉 元浦安市教育委員会社会教育主事

昭和初期、醤油醸造業で栄えた千葉県野田市は、同時に野田興風会で知られる民衆教育揺籃の地でもあった。現在、再開発によって伝統的な町並みが姿を消していく中での社会教育施設保存の動きをとらえる。そして改めて地域を観察し、生涯学習における一つの課題について考察する。

## 4. 地域に生きるユースフォーラム霧人

10:50～11:15

— 2年間の成果と今後の展望 —

東空比野和人〈宮崎県〉 みやこんじょユースフォーラム霧人 代表

2年前、都城市内の青年団体（勤労青少年ホーム、青年団、子ども劇場）に呼びかけて作ったのが、「みやこんじょユースフォーラム霧人」である。霧人には、①霧島盆地に住む人、②各人が地域の部品（パーツ、キット）となって町を盛り上げていこう、③きっとこれから〇〇しよう、〇〇できる、という意味が込められている。2年間で各自がやる気と自信が持てるようになり大きく成長した。その成果と今後の展望について発表する。

## 5. 総括討論

11:15～11:40